

仕様書

ロボット・AI部

1. 件名

NEDO プロジェクトを核とした人材育成、産学連携等の総合的展開／高度ロボット活用人材育成講座

2. 目的

少子高齢化による労働人口減少への対策として、様々な産業分野において労働生産性の向上が喫緊の課題となっており、特に労働集約型の製造現場等においてロボットシステム導入による省人化、自動化への期待が高まっている。しかし、多品種少量生産用途や中小企業等、現状ロボット活用が進んでいない分野へのロボットシステム導入においては、ロボットシステムの構築を担う人材（ロボット SIer）の不足、技術的な課題に加え、ロボットを導入・運用するユーザー企業側にロボット活用人材が少ないという課題もある。また、そうした分野では、ロボット SIer には自ら現場の課題を抽出し、全体のコンセプトの考案や高付加価値なシステム構築をするスキル、最先端のデジタル技術（AI、CPS 等）の知識等も求められる。加えて、2019 年 7 月に取りまとめられた「ロボットによる社会変革推進計画」や NEDO が 2023 年 4 月に公表した「ロボット分野における研究開発と社会実装の大局的なアクションプラン」（ロボットアクションプラン）においてもロボットの社会実装推進に向けてロボット SIer の育成の重要性が示されている。

本 NEDO 講座では、SIer 人材、製造分野のユーザー企業やロボットメーカーのロボット活用人材、ロボット導入支援人材等を受講対象者として、ロボットを活用したシステム構築（ロボット SI）のための知識習得および実践的な応用学習、さらに最先端技術に関する学習を通して高度なロボット活用人材を育成するための講座を実施する。また、人材育成の仕組みを維持、普及、定着させるための人的交流、および周辺研究として講座コンテンツ開発を実施することで、継続的な人材育成の仕組み構築を目指す。

3. 内容

産学が連携して、座学によるロボットおよび周辺技術、最新技術の専門知識習得に加えて、実際の現場や模擬環境を用いた実践的な応用学習により、高度なロボット SIer 人材を育成するための講義・演習を国内複数箇所で開催する。また、人材育成を維持・普及・定着させるための人的交流、および新規講座コンテンツの開発に係る周辺研究を実施し、体系的なロボット SIer 人材育成の仕組みを構築する。具体的には以下の（1）～（3）を一体的に実施する。詳細は公募要領も参照のこと。また、実施にあたっては NEDO と適宜相談しながら決定する。

(1) 人材育成の講座の実施

ロボットおよび周辺技術、最新技術に関する知識を座学講座により習得し、さらに社会実装を指向して実際の現場や模擬環境における実践講座を通して高度なスキルを持つロボット SIer 人材育成を目指す。受講者のレベルを考慮した上で、半期に 3 回以上講座を開催する。さらに、講座終了後も人材育成を継続的に実施するための仕組みづくりを行う。なお、講座の実施にあつ

ては、受講対象者の講座への参加意欲が向上する仕掛けを組み込むこと。

(2) 人的交流等の展開

ロボット SIer 人材育成に関連する産学のステークホルダー間の人的交流を広く実施することにより、人材育成の仕組みが維持・普及・定着することを目指す。なお、年に 1 回以上のシンポジウムを開催する。

(3) 周辺研究の実施

ロボットシステム構築における AI や CPS 等の最新技術の活用や、製造現場等の効率化のための評価技術、その他の高度なロボット SI に必要となる知識等の学習ができる講座コンテンツの開発を行い、高度なロボット活用ができる SIer 人材育成を目指す。また、コンテンツ開発に当たっては SIer のニーズを広く調査し、当該分野の有識者の意見も踏まえつつ、それらの意向を反映したものとすること。

4. 期間

NEDO が指定する日から 2026 年 3 月 31 日まで

5. 報告書

中間年報、成果報告書の電子ファイル一式を、所定の期日までに NEDO プロジェクトマネジメントシステムで提出すること。

提出方法：「成果報告書・中間年報の電子ファイル提出の手引き」に従って提出のこと。

<https://www.nedo.go.jp/itaku-gyomu/manual.html>

6. その他重要事項

委託期間中又は委託期間終了後に、成果報告会における報告を依頼することがある。

以上